

親子の ^{ハッピー} コミュニケーション

＜日 時＞ 令和7年7月30日（水）13：15～16：35
＜場 所＞ 会津若松市北会津公民館
＜参加者＞ 46名（家庭教育支援者・学校関係者等40名、講師1名、事務局5名）

家庭教育支援チームによる 活動紹介

会津地域で活動している、「家庭教育支援チーム」の代表者に、チームの活動について発表していただきました。



会津さざなみの会



あいづCAP



こころのオアシス



ミナクル



優志会



ファミリー・サポート・あいづ

活動紹介（一部抜粋）

(1)会津さざなみの会

自然体験活動を通じた家庭教育支援 H10 発足 会員数11名

① 何して遊ぼう！

「親子ウォークラリー」猪苗代町しゃくなげ平で開催。

「親子で戸口洞門くぐり」

② 何して食べよう！

アウトドアゲームとアウトドアクッキング

(2)こころのオアシス

敷居の低い誰もが入りやすい場所、困ったときに頼れる存在を目指している。

○相談室の役割

保護者や家族にとって親しみやすい場所。

児童生徒の心の居場所。先生との情報交換の場所。

関係機関と連携して活用されている。



(3) あいづCAP

2000年に設立 会員数36名

○人権教育プログラム。子どもの年齢や発達段階に応じたプログラムがある。

非暴力をテーマにしたプログラムだが、「怖がらせない」ということを意識している。

恐れずにできることがある、と小さな子にも思ってもらいたい。

嫌なことをされたら「嫌なんだ」と言ってよい。逃げることもよい。できなかつたら相談。

子ども達の話をしつくり聴くことを大人には伝えていきたい。

○ワークショップや研修の活動

様々な団体の要請を受けてワークショップなどを行っている。

(4) ミナクル

「皆来る」「ミラクル」という願いが込められている。

設立は令和6年旧会津 OHANA 子ども食堂。令和の城下町長屋として地域のウエルビーイングのために活動している。

① 緊急サポート支援事業「タクおじちゃんの悩み相談」

経済的困窮、家庭内暴力、学校での課題などに寄り添い、サポートする。

② 子ども食堂事業(おかえり食堂) ミナクルパントリー(ひとり親世帯対象の食糧支援)

みんなで楽しくご飯を食べる場所。貧しい人が来る場所ではない。

③ 第三の居場所づくり事業

フリースペース、学習支援、ママさん交流会、地域イベント参加など。

会津自然の家で体験学習を実施。

今後は、子ども達が自ら考えて活動できるようなプログラムを計画したい。



(5) 優志会

支援者がどのような支援を行っていけばよいか考える勉強会を行い70名ほどの会になった。

「地域に根ざす地域共生社会構造」よりよい地域を自分達で守っていきましょうという考え。

介護保険・障がい窓口 引きこもりの方達への支援 子育ての支援の需要が高まっている。

障がいをもつ子の家庭に対しての支援から子育て世代に対しての支援に広がっている。

教育、福祉、医療など多分野にまたがる全世代の課題にアプローチしていきたい。

(6) ファミリー・サポート・あいづ

「家庭訪問子育て支援 ホームスタート」子育て広場に行けない家庭への支援を行う。

“待つ支援”だけでなく、一人一人のニーズに合った“届ける支援”が必要との考え。

地域の子育て経験者が週に1回2時間程度定期的に家庭に訪問し、友人のように寄り添う。

「傾聴」と「協働」の考え方で、親世代に寄り添う支援を行っている。



ペアレント・トレーニングを知って、
子どものほめ方を身に付けよう
会津大学文化研究センター 上級准教授 小川 千里 様



- ・ ペアレント・トレーニングとは、1960年代から、アメリカを中心にはじまった。
- ・ 医療や子育てなど様々な分野で応用され、実施されている。
- ・ 子どもの生活スキルの向上、問題となっている行動の減少、親の養育スキルの獲得、親のストレスや抑うつに減少に効果があるといわれている。
- ・ 日本では、厚生労働省により地域への普及がすすめられている。

肯定的なほめ方のバリエーション

- ・よろこぶ、おどろく ・感謝する
- ・その行動に気付いていることを知らせる
- ・ジェスチャー ・スキンシップ
- ・ほめる ・はげます ・興味や関心を示す

「伝わるようにほめる ポイント」

- ①視線を合わせる ②能力や性格でなく、行動をほめる
- ③短く具体的にほめる ④褒めるタイミングを見極める
- ⑤表情・声の調子を工夫する

「否定的な注目」とは

しかる、どなる、お説教をする、ため息をつく
眉間にしわをよせる など

「肯定的な注目」とは

ほめる、みとめる、笑顔を返す、うなづく など

「ほめるハードルをさげてみよう」(25%ルール)

“すべてできたらほめる”ではなく、“25%できたらほめる”というルール。

<宿題を例に>

- ・ランドセルから宿題を出した ← 始めようとしたね!
- ・宿題をやるのかなと言った ← やる気があるね!

肯定的な注目「ほめる」でプラスの関係へ。行動(良いところ)を見ることがペアトレの第一歩

参加者の声

- 家庭教育支援チームが、様々な形で会津地区において活躍されていることを大変嬉しく思いました。核家族化が進む中で、子育てに苦勞されている家族に支援の手が届けられるように、行政面での支援、広報活動が重要であるとも感じました。(家庭教育支援者)
- 自分の子どもはまだ3才ですが、「テストの点数が60点だった」の演習では、なぜか自分を見ているようで泣きそうになりました。子どもをたくさんほめてあげようと思いました。(教育委員会、行政関係者)
- 褒めて自信につなげると分かってはいても、自分に余裕がないとなかなかうまくいかないが、“好ましい行動”に目を向けて、25%のことで褒めていく。これなら実践できそうだと感じた。(幼・こども園教職員)
- 子どもに関わる立場として、「好ましい行動を見るだけでなく、好ましくない行動や危険な行動も具体的な行為として捉える視点をもつことが大切だ」という内容が新鮮でした。(教育委員会、行政関係者)
- ほめるためには、相手の行動をよく見ていく習慣を付けることが大切だと改めて気付きました。気付き相手のことを日頃から見ていて、よい親子関係ができているからこそ、褒めることができ、更に良い関係になっていくのだと思いました。今まで足りなかったところを、補っていきたいと思います。(教育委員会、行政関係者)
- とても分かりやすく、実践を交えた講演で、楽しく学ぶことができました。ほめ方のコツを、保護者さんにも伝えていきたいです。(自分の子育てをやり直したいです)(幼・こども園教員)